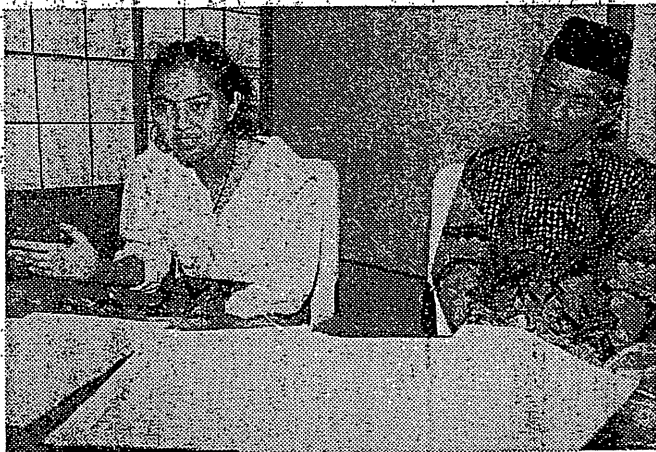


読売新聞 1991年9月8日

社会

# 住民が怒りの「直訴」

## インドネシアのODA事業



ダム建設の問題点を訴えるラハマットさん(右)と  
通訳のパハラムさん(左) (東京・市ヶ谷の旅館で)



ダムは有効貯水容量一億  
コタパンジャンダム建設予定地

# 「強引な承諾書集め」

## スマトラ島のダム建設 署名携え代表来日

日本の政府開発援助(ODA)によるインドネシア・スマトラ島のコタパンジャンダム建設をめぐる、水  
没予定地の農民代表ら二人が七日来日し、「住民は全く無視され、何の情報もありません。強引にダム建設が  
進められている。住民の移転承諾書や補償同意書もむねに近いうちの方を集めていくつもりで、  
建設資金の貸手である日本政府に訴える。現地の住民や環境への影響への配慮に欠けるODAのあり方  
が国際的な問題となっているだけにこの「直訴」の行方を注目される。

コタパンジャンダムは、  
スマトラ島中央部に位置  
し、昨年十二月、日本、イ  
ンドネシア両政府が借款契  
約を結び、建設を決めた。  
総工費三百六十五億円のう  
ち、百二十五億円の貸し付  
け分についてはすでに契約  
済み。残りの一部は近く閣  
議決定される。

地を中心にカンパール地区の八つの村の代表の一人、ラハマットさん(四七)と通訳のパハラムさん(三三)の二人。  
ラハマットさんによると、「移転承諾書」は二つの方法で強引に集められたという。一つは、条件付きでダム建設に賛成している村の首長らに対して「これに署名しなければ、いかなる補償も受けられなくなる」として署名を強いた。もう一つは、「一般の住民に對して、地方政府の役人が補償の対象となる土地家、樹木などのリストに関する膨大な書類への署名を求め、ついだに「移転承諾書」への署名も取ったケースが多いという。  
「補償同意書」について、七月、①移転承諾書の無効②すべての問題が解決されるまでの着工の延期③プロジェクト全体の見直しと住民への話し合い実現、などを盛り込んだ「村民合意書」への署名を集め始め、七百人がサインした。この署名簿は、十三日に外務省に提出される予定だ。  
これに対し、外務省の有償資金協力課では、昨年来インドネシア政府には住民移転については住民の同意を得るよう求めている。確認して「はい」としている。